

第3回ひまわりの里基本計画策定委員会

日 時：令和元年8月26日（月）18：30～21：50

場 所：北竜町役場 2階会議室1

出席者 別紙名簿のとおり委員23名、事務局4名、傍聴15名、

1 開 会 事務局 役場産業課 吉田係長進行

2 挨拶 佐野町長～本年のひまわりまつりも、多くの観光客にお越しいただき、事故もなく無事終えることができた。委員会も3回目になるが、ひまわりの里を全国に発信するために、新しい魅力あるものにするため将来の指針となる計画の策定をお願いします。

3 議 題

(1) 今年のひまわりまつりの報告について

【観光協会（佐光会長）】

- ・7/20～8/20、例年より5日ほど短い日程で開催し、過去2番目となる286,000人の来場者であった。協力金についても感動の対価として約300万円集まり、ボランティア協会に感謝。草取りなど、町民あげてのまつりの開催に感謝する。

【町（吉田係長）】

- ・播種作業は計画通り。しかし、干ばつで生育が遅れ、消防車両による散水作業を実施。7月に入り降雨もあり、徐々に咲いてなんとか間に合った。5日間期間が短いにもかかわらず過去2番目の入り込み。協力金も約300万円、自転車レンタル代も平均すると昨年以上であった。イベント時の雨も少なかった。

【商工青年部（藤田副部長）】

- ・宮島学園とのコラボイベントについて報告。Tシャツコンテスト及びスイーツコンテストの実施。唯一イベント時に雨が降ったが、少ない入り込みでも好評であった。商品化を検討したい

【ボランティア協会（田中会長）】

- ・一人100円として10～20%位の方に協力いただいているのではないかと。駐車料、入場料すべて無料であるので、是非協力してほしいというのが本音。100円でいいので、協力してくれる方を増やしていきたい。帰路に看板を立てるとか。オープン前やクローズ後も結構来ていた。カウントしてはどうか？

○佐々木氏より別紙アンケートについて報告

○石川委員・田口委員よりまつり期間中に実際に訪れた感想

【石川委員】（小雨の日。1歳の子どもを連れて来場）

- ・授乳室が狭く、扇風機もなく暑かった。おむつ交換スペース、広めのトイレ等、口コミで1位になる施設は、子育て世代に的を絞って高い評価を得ている。子育て世代、若年層に特化してアピールするののも一つの方法。

【田口委員】

- ・訪れるのは2回目。日よけがないのがつらい。屋根が必要と感じた。観光センター

とひまわり畑に高低差があり、分離され連続性がない。食事をする人が少ない一因ではないか。また、展望台の補修について、周知しなかったのが反省点。

(梅原さんの迷路のデザインと隈さんの展望台の補修で迷路は4割増)

(2) 吉田係長より別紙素案の通り中間報告について説明。

(3) 各委員より意見・要望の聴き取り 鈴木委員長進行

観光センター・展望台について

○田口氏より、観光センター、展望台案について説明（別紙資料）

【田口委員】

- ・飲食スペースを外に。初めての人は建物の中に入りづらいが、外だと立ち寄りやすい。ひまわりを見る高さが位置によってまちまちなので、階段を展望台のように使えば、それぞれ自分に合った高さで見るといった使い方ができる。

この委員会の位置付け及び委員の選定理由について

【高田（昌）委員】

- ・この委員会は方向性や展望を話し合うもので決定機関ではないですね。

【鈴木委員長】

- ・方向性を決めるものであると同時にそれは決定事項ともなる。

【高田（昌）委員】

- ・それならば事前に資料をくれないと自分の団体での話し合いができない。

【鈴木委員長】

- ・団体の代表として来てもらっているので、代表としての意見を言ってもらわなければ意味がない。そして何かあれば帰ってから話し合っ意見言ってもらいたい。

【高田（昌）委員】

- ・では、ひとつ持って帰って出た意見がある。
なぜ先生方ではないとダメなのか。先生方のことは出ている僕らは知っているが、町民みんながそうではない。なぜ町が先生方の力を必要としているのか町民に理解されなければならない。そうしなければ自分もノースドラゴンに対して説明できず意見を吸い上げることができない。信頼関係がない。自分はこの町が好きで、信頼している人と作っていきたい。行政側から理由をしっかりと説明してほしい。

【高橋副町長】

- ・情報提供にも限界がある。また今はいろんな方法で調べることができる。
ただし、もっと情報提供するよう努めていく。

【高田（昌）委員】

- ・先生方ではなければならない理由に関しては明確な答えはないのか。

【竹林（由）委員】

- ・昔から北竜に来ていただき、気にかけてくれている。応援大使にもなってくれている。まちのことを考えてくれている人ということではダメなのか？

【竹林（玲）委員】

- ・私は北竜に住んで2年。昔のことは知らない。前から知っていて情報収集している人にとっては理解しやすい。だが、あまり情報収集してこなかった人に対してもわかりやすくアピールするのは必要であって、分かっている人だけで進めて、過程がわからないまま進んでいくというのが嫌ということか？

【高田（昌）委員】

- ・それもあるし、保育所の件で何の説明もなく進んだこともあり不信感。信頼がない。

【佐野町長】

- ・今日も多くの方が傍聴に来ていて、興味、関心の高さ感じている。町民の意見を聞いてこの町の将来の指針となる計画書を作りたい。それに対して色んな意見を出してもらうのはいい。ただ応援大使である先生方は北竜に長く関わっていただいている。その人達に対して信頼できないという発言はいけない。計画についても予算や世界情勢などからすべて実現可能なわけではない。それぞれの団体で持ち帰って十分説明してほしい。

【田中委員】

- ・保育所のこと、町外に住む子どもにも、すごい先生方が関わっていることを聞かれた。みんな興味を持っている。そういう時代だと思う。

【澤田（貴）委員】

- ・保育所の件で言えば、地元の議員がきちんと説明、報告してくれた。他の地区ではやっていないのか？議員が地域に説明すべき。

【藤田（真）委員】

- ・あと2回の会議でまとめられるか不安。先生たちのスケジュールの都合もあるが、町民の委員のみの会議は考えられないか。

【鈴木委員長】

- ・委員同士の信頼関係が無いと回数を増やしても意味がない。

【佐光委員】

- ・いろいろな意見を聞きながら、シンクタンクとして先生のアドバイスをもらう。いかに良い観光地となり、生き残れる街を目指すか、意見を出してほしい。

【梅原委員】

- ・町のエネルギーがどれだけあるか？我々は「異物」のエネルギー、地方の町、住んでみないとわからない。素敵な考えやビジョンのない町の方が多い。住んでいる人たちにそういう意識があるかが問題。鈴木さんに声かけられたとき、「そんな町どうでもいい」と言った。鈴木さんに説得された。おむすびコンテストについても、町民の参加者が少なかった。こちらのエネルギーが上回っている。地元の人々のエネルギーが強くないとダメ。そちら側のエネルギーはあるのか？不信感があるなら成立しない。そちらにエネルギーがなかったら無駄。

【高田（昌）委員】

- ・最初意見を聞いて、最後に報告を受ける。中間がない。ノースドラゴン、50人のメンバーがいて、中間の検討内容の報告が無く、間が抜けている。先生方ではなくて、行政が信用できない。

【竹林（玲）委員】

- ・せっかくこういった話し合いをしているのに、そういうことをしているということが町民に届いていない。町民からの盛り上がりが少ない。町民への働きかけが少ないということではないか。

【竹林（由）委員】

今回の委員会、防災無線で誰でも参加できると聞いてびっくりした。初めてだと思う。ひまわりの里は当初、当時の若者が荒れた畑を切り開いて、自分たちで造成した。ひまわりを町の宝にしようと 30 年かかってここまで来た。今の若者は生まれたときにひまわりがありそれを継承するしかない。ひまわりの里は農家・町民の誇り。今回来ていただいた 5 人の先生を利用しない手はない。町民では出せないアイデアを出してくれる。

【梅原委員】

- ・里をどうしたらいいか、もっと素敵にしたい、と議論することによって信頼関係が生まれてくる。

【鈴木委員長】

- ・北竜町のいいところを伸ばすために 30 年前から取り組んでいる。

【谷垣委員】

- ・おむすびコンテストの表彰式を終えてきた。北竜の農家に惚れた。ひまわりライス売れている。町民の盛り上がりがいまいち。北竜町の開拓スピリッツを見たい。

【干場委員】

- ・高田（昌）委員の言いたいこともわかるが、行政との問題であり、この場ではなく行政と話せばいい話。

ハード（展望台・観光センター）について

【沖野委員】

- ・長屋風の案だが、席数、雨天対応、スポーツ施設としての利用から現状の大きさの建物を検討できないか？

【田口委員】

- ・前回、スポーツ施設のことは考えず、「新しい観光センター」をとということでまとまったので今回のような案を作った。囲うメリットは？

【沖野委員】

- ・お客さんは座って休みたい。飲食利用がほとんどなので座って食べないといけない。現在席数は 316 席くらいだが、この案が席数どれくらいのイメージか。

【田口委員】

テーブル、いすは半分外。300 席対応可能。囲うと、中に入ると閉鎖的でひまわりのイメージが無い。

【澤田（正）委員】

- ・ノンの森の方に建てると、国道からひまわりが見えなくなる。平屋であれば解消される。

【鈴木委員長】

- ・ひまわり畑との一体感重要。

【竹林（玲）委員】

- ・一番後ろの案。富田ファーム的導線。ただ通路が狭いので、世界のひまわりを再整備して、スペースを確保していかなければ場所が足りないと思う。

【藤井委員】

- ・商工会及び建設業協会としては、観光センターの上に展望台。展望台まではスロープを作ることによって車椅子、スカート対策になる。

【竹林（由）委員】

- ・雨の日は意外と客が来る。雨宿り対策必要。

【藤井委員】

- ・今の観光センターは外から見て何の建物かわからない。

【鈴木委員長】

- ・来場者を満足させる建物にしなければならない。

【藤田（真）委員】

- ・当初はプレハブから始まった。屋根がなく、雨が降ると人も来なかった。建物に屋根は必要。

【竹林（玲）委員】

- ・雨の時、屋内だから来ている訳ではなくて、屋根があるから来ているので、屋根があって席が確保できれば大丈夫ではないかと思う。

【田中委員】

- ・まつり期間以外の11ヶ月もったいないという悩み。今まではスポーツ施設として利用できていた。また、フラワーフェスタや盆踊りの会場どうするか？

【鈴木委員長】

- ・30年後を見据えたハードにしなければならない。北竜町は全国のひまわりのまちの先駆者、また同じ物を建てるか。それとも話題となるものを建てるのか。20年30年経っても魅力ある物を議論してほしい。

【澤田（貴）委員】

- ・四角ではなく、円形とか変わった形のものを。ガラス張りでひまわりが見える建物。

【竹林（由）委員】

- ・ビールパーティ、町民が一番多く参加するイベント。町民のためのイベントは大切にしたい。

【竹林（玲）委員】

- ・観光客のための建物か？町民のための建物か？どっちのために作るか重要。どちらも大切にしたい。

【鈴木委員長】

- ・イベントがメインで無い。ひまわりがメイン。ひまわりを見に来た人のための施設であるべき。

【竹林（由）委員】

- ・国道から黄色が見えることが重要。

【藤信委員】

- ・管理する方の立場としての意見。管理人室は、何かあれば訪れるところなので重要

である。長屋だと端から端の距離が遠くなる。子ども施設（おむつ交換所、授乳室）をわかりやすく配置する。外国人に対してもわかりやすく。

観光センターをくぐった先にひまわりの絶景を見せるのもいいのでは。外から見えるのもいいが、焦らす形もいい。

【竹林（玲）委員】

- ・協力金も、明確な入り口にあればわかりやすい。

【谷垣委員】

- ・米や農業をハードに添える。おむすびコンテスト参加者で「おむすビジネス同好会」を立ち上げ、起業化を目指す。中学生で社長になる子が現れるかも。

【石川委員】

- ・観光客が楽しむのか？町民が楽しむのか？が難しい。よく吟味しなければならない。どこを目指すか明確化して、揉んでほしい。

【梅原委員】

- ・まつり期間は1ヶ月。町民が1年間有効活用できるもの。工夫された建築物を見に来る。雪でも十分な資源になる。次回、A、B二案くらいで田口さんに用意してもらおう。

【田口委員】

- ・皆さんの理解は得られたと思う。今日の宿題をポジティブにどうするか、次の会議で実のあるものにしたい。

【鈴木委員長】

- ・北竜の人が自慢できるものにしてほしい。商売したくなる、観光客が行ってみたいと思う、誇りになるものに。

ソフトについて

【竹林（由）委員】

- ・「四季を通したひまわりの里の活用」について、ずっと同じ場所に植えるというのは限界。輪作体系を考え、体験ができるものを考えてはどうか。じゃがいも掘りだとか、カボチャを採るとか、ひまわりの花摘み体験。

【澤田（貴）委員】

- ・畑はそれほど悪くない。

【澤田（正）委員】

- ・最初はひどい土地だったが、堆肥の投入、客土、緑肥麦の播種の実施により最初に比べればいい畑になった。

【佐野町長】

- ・一昨年は第一迷路は2mぐらいまでになった。昨年は雨が多く日照がなかった。今年は干ばつで雨がなかったから生育が悪かった。

【高田（幸）委員】

- ・水管理の体制作りが必要。

【鈴木委員長】

- ・天候に左右されない水管理の体制が必要ということですね。あとは他の植物を作る

とか農業体験は可能か？

【澤田（正）委員】

- ・ひまわりに特化すべきと思う。広大なひまわりを見せる。ひまわりの里の管理は、今は人がいなくて、やってくれる人がいない中、やっとやっている状況。農業体験を運営する人がいるのか？

【藤田（真）委員】

- ・7、8月から始まるカレンダーを作って観光協会で販売するのはどうか。

【沖野委員】

- ・ドラマを誘致する。フィルムコミッション。勝手にロケ出来るひまわり畑の用意。

【竹林（玲）委員】

- ・ひまわりのない時期、麦わらストロー、ヒンメリ体験

【澤田（貴）委員】

- ・町民の才能を有効活用する。パン作りの得意な人もいる。

【鈴木委員長】

- ・東川町の仕事コンビニのような仕組みがあればいい。体験指導者、外国語通訳

【梅原委員】

- ・廃プラ問題から、麦わらストローをスタバに売り込むとか。自然に優しいまち

【鈴木委員長】

- ・生食パンは、都会では外国人のお土産になっている
時間も無いので、それぞれの団体でアイデア、意見を出してもらおう。

【石川委員】

- ・空きブースがあれば、取り合いになるくらいが理想。やりたい人、意識が高い人が管理運営する。是非出店したい方がいれば相談してほしい。

【田口委員】

- ・建物について、町の人とコミュニケーションしながらポジティブに考えるという貴重な体験だと思う。ありがたい。

【佐々木氏】

- ・8月以外、他町のイベントと絡めて通年人を呼んではどうか。

【谷垣委員】

- ・今度大学で講義を行う。「お米のビジネスアイデア」で課題出す。北竜町が審査する。

【梅原委員】

- ・町の内側から見ていてもわからない、外から見る人の意見、アドバイスを積み重ねていきたい。

【鈴木委員長】

- ・失望最小戦略 失敗しないように小さく小さくやって行くのか？先がわからないから、このまま我慢する。変化を嫌い、リスクを避ける 非常に保守的な考え
希望最大戦略 新しい時代に敏感に ポジティブに行くのか？